

「30分電力量提供に係るシステム検討」 報告書

2015年6月25日

広域的運営推進機関 設立準備組合
30分電力量提供に係るシステム検討部会

システム検討部会発足について（第12回制度設計WG報告資料より抜粋）

第11回制度設計WG資料より

検討課題	具体的検討内容、方向性など
小売・送配電間の情報連携に関する基盤整備状況確認	本年10月に、一般送配電事業者で構築する、30分電力量を60分以内で提供するための高速連携機能のシステム基本仕様を確認したが、その後の詳細設計の状況および概算コストについての確認を実施。なお、具体的な確認方法、確認体制等については別途調整することとする。

○これまでの経緯

- 上記のとおり、昨年10月に「小売—送配電情報連携に関する技術検討部会」（以後「技術検討部会」）にて、小売電気事業者と一般送配電事業者間で連携が必要となる情報の連携方法（通信方式、フォーマット等）に関する通信共通規約を制定し、また30分電力量を60分以内で提供するための高速連携機能の基本仕様の確認を実施してきたところ。
- その後、基本仕様を元に各社で高速連携機能の設計を実施している。

○確認内容および体制

- 集中的・効率的に確認を実施するため、専門的知見を持つ有識者に参加頂き、検討部会を設置する。

メンバー	有識者	稲垣先生（制度設計WG委員） 梅嶋先生（慶応義塾大学、スマメ検委員） 石井先生（早稲田大学、技術検討部会事務局）
検討範囲	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 平成28年4月時点において確実に30分電力量が60分以内で情報連携が可能であるか ➤ 将来の機器の処理能力向上等により更なる高速処理が可能であるかなど、拡張性のあるシステム設計となっているか ➤ 社会全体の費用負担を抑制する観点からコストがむやみに増大していないか 	

(参考) システムの検討部会の活動状況

✓ 実施期間（平成27年2月～）、実施内容は次のとおり。

時期	主な内容
2月上旬	一般電気事業者各社への調査範囲、内容の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高速連携を実現するための機能配置、前提条件 ・ どのような技術仕様、アーキテクチャーとしているのか ・ その結果、30分値を60分以内で本当に伝送可能であるか ・ 今回の開発コストが、むやみに過大となっていないか
2月中旬～	各社にて提出資料の準備
3月9～10日	各社からの資料提出とヒアリング実施
3月13日	第1回システム検討部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各社調査結果の概要を確認 ・ 論点や検討の方向性を確認
3月下旬	各社へ不明点等の追加調査を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ コスト最適化の資料の追加提示 ・ 情報公開サーバの仕様についての説明（同時アクセス想定、対策等） ・ スマメ～情報公開サーバまで全体的なシステム連携方式、SLA等
4月6日	第2回システム検討部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各社の追加調査結果の確認 ・ 報告の方向性を確認
4月中旬～	報告書まとめ

「30分電力量提供に係るシステム検討部会」の論点と評価まとめ

✓ 論点と評価は次のとおり。

① 高速連携を実現するための機能配置、前提条件

⇒品質を維持する上で重要なポイントは、HES部分と公開サーバ部分であるがH28/4運転開始のスケジュールを考えると**妥当な施策**と評価

② どのような技術仕様、アーキテクチャーとしているのか

⇒H28/4運転開始のスケジュールを考えると**妥当な施策**と評価

③ 30分値を60分以内で伝送可能であるか

⇒伝送可能と考えられるが、データ量が大幅に増大するため、ネットワーク品質向上への配慮が必要

④ 開発コストが、むやみに過大となっていないか

⇒30分電力量提供に係るシステムに関しては、アーキテクチャー上、特別な高コストとなる仕様とは確認できないが、今後必要となる実装コストがむやみに過大とならないよう、引き続きモニターすることが望ましい。